

令和6年能登半島地震

復興リハビリテーション支援事業  
事業説明(R6年度実績)

石川県リハビリテーションセンター

# 石川県創造的復興プラン

本プランを創造的復興の実現に向けた羅針盤と位置づけ、県の成長戦略に基づく施策の推進を県政運営の基本としつつ、地震からの復興に関する事項は本プランに基づき推進する

## 大施策 5 被災者・被災地への支援の充実

### 中施策 7 避難者や被災者の健康管理

#### 小施策 3 被災者へのリハビリテーション支援

##### 【取組】被災者の生活不活発病予防や介護予防への支援

被災者の生活不活発病予防や介護予防のため、仮設住宅に入居する高齢者・障害者等に対し、リハビリテーション専門職の派遣や相談対応等を実施します。(健康福祉部)

取組	短期 (~R7末)		中期 (~R10末)			長期 (~R14末)				
	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	
被災者の生活不活発病予防や介護予防への支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 仮設住宅等へのリハビリテーション専門職派遣</li> <li>● 被災者の相談支援</li> </ul>		市町の事業化支援							
	市町の人材育成、研修会の実施									

# 市町や専門機関と連携した被災者への各種支援

被災者の所在

発災後～これまで  
避難所がメイン



1箇所に複数人で過ごす

災害派遣チームが中心となり対応

今後

自宅帰還、仮設住宅への入居が本格化



自宅・仮設住宅で個人で過ごす

周囲の目が届きにくくなることによる被災者の孤立、  
生活環境の変化による心身の不調が懸念

見守り・状況把握

仮設住宅入居者、  
在宅の高齢者・障害者  
等への個別訪問

各市町や県において、  
社会福祉協議会、  
専門ボランティア団体  
等により実施

被災者  
データベース  
を活用

個別訪問の  
情報集約

要支援者等を把握

必要な支援につなぐ

個々の被災者に必要な支援をきめ細かく提供

生活環境変化に  
伴うメンタル不調

被災者のこころのケア

精神科医・保健師等による訪問相談等

運動量低下による  
要介護化

介護予防・悪化防止

リハビリ専門職による集会所等での介護予防活動等

栄養バランスの乱れ  
による健康状態悪化

栄養・食生活支援等

栄養士等による栄養指導や食生活改善サポート

仮設住宅等における通所・在宅サービスの拠点整備を支援

食事・入浴等を提供するデイサービスや総合相談支援を包括的に提供

⇒要支援者以外も利用できるようにすることでコミュニティづくりの拠点に

# 復興リハビリテーション支援事業(概要)



**事業概要**

被災高齢者等の生活不活発病や要介護化を予防するため、**県リハビリテーションセンターが中核機関となって、地域の医療機関に所属するリハ専門職を派遣し、仮設住宅等での相談対応や介護予防活動に取り組む。**

4月 JRAT(日本災害リハビリテーション支援協会) 撤退

6月～ 訪問相談開始(6市町に常駐の担当リハ職を配置)  
週1回(毎週水曜日)連絡会議を実施  
(6市町担当リハ職、リハセン、長寿社会課)



仮設住宅における生活動作の支援



仮設団地で体操や脳活プログラムを実施(能登町小木、六水町由比が丘)

石川県復興リハビリテーション支援事業

**みなさんの健康を応援します!**

「自分できる」を増やしませんか?

仮設住宅等の住環境支援  
福祉用具、住宅改修、動作の相談、お風呂やトイレなど日常生活動作の困りごとを支援します。

心と身体を元気に地域を元気に!  
生活不活発予防に対する支援  
心の健康を身につけるために、集会所等を利用し、作業や運動など日中活動を応援します。

復興リハビリテーション支援事業とは  
令和6年被災高齢者等が生活不活発病や要介護状態になることを予防するために、リハビリテーション専門職(理学療法士、作業療法士、言語聴覚士等)が活動。認知機能の維持向上のための支援も、被災者の暮らしを改善するための相談対応、そのほか市町事業への連携的な活動支援を行う事業です。

お問い合わせ  
平日 月～金曜日  
9:00～17:00

石川県リハビリテーションセンター 石川県金沢市高土町二丁目13-1  
TEL:070-2319-2260 FAX:070-2319-0664 メール:info@rehabcenter.kanai.jp  
珠洲市担当:珠洲市総合病院 リハビリテーション科  
TEL:090-81155-2433

仮設住宅向けチラシを配布

ちょっと外に出てこんげ?

「こころ」と「からだ」を動かしましょう  
被災地での生活は、心も体も疲れがたまっていることに加え、豊かと異なる生活により、不活発になりがちです

からだを動かさない → 心身の疲れがたまる → もっと動きにくくなる → 歩くことが難しくなる

一箇所のチェックリストでチェックしてみましょう

アクティビティセンターで楽しくリフレッシュしている皆さん

場所 小木地域交流センター 2階  
時間 毎週水曜日 午後1時30分～午後3時  
内容 脳トレ・手芸・塗り絵 体操 など

どなたでもいらしてください  
・一人一人のやりたいことに合わせて時間をすごします  
・身体の不活発を少なくできる工夫を考えます  
・途中が心配な人はご相談ください

毎週火曜日は  
午後1時30分から  
いきいき百歳体操  
を行っています

能登町復興リハビリテーション  
担当: 森山恵子(作業療法士)  
TEL:070-2319-0664

仮設向けチラシ配布で介護予防教室の呼びかけ



浴槽の移乗台・滑り止めマット



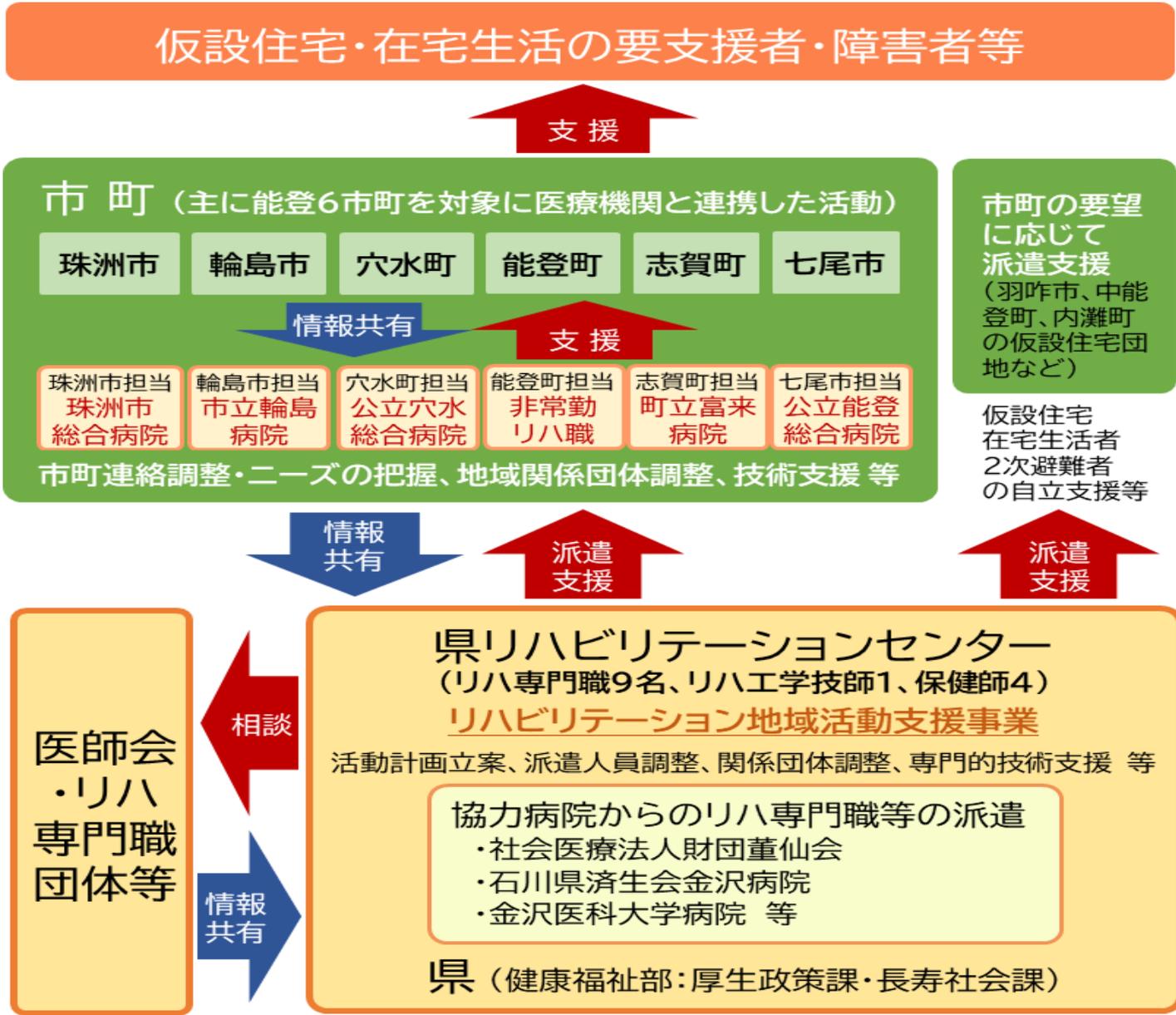
トイレの足台



段差解消(くさび設置)

➡ ①仮設住宅の環境調整や生活動作の支援、②集会所等での介護予防教室の2事業を中心に活動展開。

# 復興リハビリテーション支援事業体制



# 対応経過 R6.1月～4月



発災後、避難所において被災高齢者等の健康状態の悪化や災害関連死を積極的に予防する必要性から、災害医療チームとしてJRAT(日本災害リハビリテーション支援協会)が、リハビリ支援を実施してきた。JRATの活動は、令和6年4月末に撤退するため、被災高齢者等への支援継続の必要性から、県が令和6年6月補正予算事業でその活動を引き継ぎ、各市町の実態に応じた支援活動を展開することとした。

## ●R6年1月

3日 金沢医科大学病院に石川JRAT災害対策本部設置

8日 石川JRATが円滑に被災者支援ができるよう石川県と協定書を締結(医療対策課)  
1.5次避難所、被災地での活動開始

13日 石川本部を県リハビリテーションセンターに移転

14日 地域JRAT活動開始

## ●3月

12日 災害リハ支援担当者連絡会開催

石川JRAT関係者、リハ専門職団体、県、リハセンでJRAT活動終了後の支援体制について協議

## ●4月

上旬 県リハセンが能登6市町公立病院を訪問し、復興リハ事業について相談

13日 JRAT引継ぎ会議(石川JRATと県リハセンター)

30日 JRAT活動停止

## ●5月

1日 震災復興に向けた地域包括支援センターネットワーク会議において  
熊本県職員から熊本地震における復興リハ事業の説明を受ける

上旬 「復興支援リハビリテーション支援事業」  
として令和6年度6月補正で予算要求 → 5月20日議決

下旬 能登の公立5病院に復興リハ事業の正式協力依頼

28日 災害リハ支援担当者連絡会開催  
石川JRAT関係者、リハ専門職団体、県、リハセンで復興リハ事業について協議

## ●6月

上旬 能登6市町を訪問し、福祉担当課に事業説明  
復興リハビリテーション支援事業開始

5日 能登6市町の担当リハ職の連絡会議を開催  
以降、毎週水曜日定例会議として継続開催(R7年2月までに36回開催)

25日 地域リハビリテーション推進検討会議開催

●7月 仮設住宅への住宅改修(手すりの取付け等)のニーズ調査開始

## ●8月

上旬 仮設住宅団地でのアクティビティセンターが本格稼働  
(能登町の小木団地での活動を皮切りに、R7年1月までに11会場で活動)

- 8月  
下旬 住宅改修やアクティビティセンターの活動が本格化するため、医療機関に協力要請  
(9月～社会医療法人財団 董仙会、11月～金沢医科大学病院、11月～石川県済生会金沢病院)  
アクティビティセンター運営には(公社)石川県作業療法士会に協力要請(週1回 2名派遣)
  
- 9月  
21日 能登半島豪雨災害発生  
下旬～ 豪雨災害の避難所で復興リハ担当が支援活動実施
  
- 10月 住宅改修工事が本格稼働(取りまとめ発注分はR7年2月までに終了)
  
- R7年
- 1月  
15日 三原じゅん子大臣が穴水町由比ヶ丘団地のアクティビティセンターを視察
  
- 下旬 輪島市門前地区仮設住宅 9団地への巡回教室「口腔フレイル予防」  
(穴水総合病院耳鼻咽喉科医師に同行)  
(公社)石川県言語聴覚士会に協力要請(3日間 各1名派遣)
  
- 3月  
1日 市町や関係者向けに「復興リハビリテーション支援事業活動報告会」を開催

# 復興リハビリテーション支援事業 活動実績

## 【リハ職活動人数とのべ 活動日数】

	輪島市		珠州市		能登町		穴水町		七尾市		志賀町	
	活動人員 (人)	延べ活動日数 (日)										
6月	4	25.5	1	11	1	10	1	9.5	1	0.5	1	6
7月	4	33	1	17	1	10	1	11	1	2	1	10
8月	4	34.5	1	15	4	26	1	14	1	3.5	1	7
9月	6	37.5	5	21	5	26.5	1	12	1	4	1	7.5
10月	6	36.5	4	27	5	30.5	3	19	1	3	4	18
11月	6	37	6	30	5	26	3	25.5	1	1.5	4	14.5
12月	6	31.5	6	32	4	22.5	4	21	1	1	4	18.5
1月	6	39.5	6	31.5	4	21	4	18.5	1	3	4	14.5
2月	6	34.5	6	39.5	4	21	4	16.5	1	7	4	15.5
3月	6	41	6	33	4	26.5	4	21.5	1	4	5	21.5

# 復興リハビリテーション支援事業 活動実績



## 【月別 機関別 リハ職活動日数】

	10月活動日数(日)				11月活動日数(日)				12月活動日数(日)				1月活動日数(日)				2月活動日数(日)				3月活動日数(日)			
	合計	復興 リハ 担当者	協力 機関	リハ セン ター	合計	復興 リハ 担当者	協力 機関	リハ セン ター	合計	復興 リハ 担当者	協力 機関	リハ セン ター	合計	復興 リハ 担当者	協力 機関	リハ セン ター	合計	復興 リハ 担当者	協力 機関	リハ セン ター	合計	復興 リハ 担当者	協力 機関	リハ セン ター
輪島市	37	24	4	9	37	23	5	9	32	20	4	8	40	27	5	8	35	24	5	6	41	24	7	11
珠洲市	27	18	3	6	30	12	10	8	32	12	12	8	32	12	12	8	40	17	7	16	33	15	14	4
能登町	31	9.5	14	7	26	12	10	4	23	11	9	3	21	9	8	4	21	12	6	3	27	13	12	2
穴水町	19	13	2	4	26	20	2	3.5	21	15	2	4	19	14	2	3	17	13	2	1.5	22	16	4	2
七尾市	3	3	0	0	1.5	1.5	0	0	1	1	0	0	3	3	0	0	7	7	0	0	4	4	0	0
志賀町	18	11	2.5	5	15	10	2	2.5	19	12	3	4	15	9.5	1.5	3.5	16	12	1.5	2	22	12	6.5	3.5



**R6. 6. 5から週一回水曜日 定例会議16:30~17:15  
(R6年度 40回開催)**

## 【参加者】

- ・6市町復興リハビリテーション担当者
- ・協力機関リハビリテーション専門職
- ・県長寿社会課
- ・県リハビリテーションセンター

県リハビリテーションセンターが中核機関となり、能登6市町にリハビリ専門職を派遣し、仮設住宅や被災自宅で閉じこもりがちな高齢者等の要介護化や状態悪化を予防

## ○ 仮設住宅の集会所等で介護予防のための教室を開催

84団地の集会所等で週1回の活動を展開

➡ これまで延べ約560回開催、約6千人が参加  
団地の自主運営へ移行しながら、今後も順次拡大  
【活動メニュー】

体操、脳トレ、手芸、塗り絵、書写、園芸など



### 参加者の声

- ・ みんなと顔を会わせて、一緒に体を動かせるのが楽しい。
- ・ 介護予防の大切さが分かった。
- ・ 集会所で話相手や友人ができた。
- ・ 畑作業もしたい。

## ○ 個別訪問による相談支援、仮設住宅の生活環境の改善

- ・ 生活の困りごと相談支援 市町の見守り支援の情報から個別訪問
- ・ 仮設住宅での車いすの生活動作の支援
- ・ 個別の生活ニーズに合わせた住宅改修 (新たな手すり取付け 等)

➡ 全団地 210戸の改修工事を終了



### 仮設住宅の住民の声

- ・ 浴室の踏み台と手すりの取付けで、お風呂に不安なく入ることができた。
- ・ 生活動作支援のおかげで、車いすでも安心して在宅生活ができる。

長寿社会課076(225)1498

## ●目的

仮設住宅や被災自宅で閉じこもりがちな高齢者等の要介護化や状態悪化を予防

## ●運営方針

- ・ふらっと立ち寄りたくなる、顔見知りができる、日課として継続的に活動したくなる場の提供
- ・閉じこもる傾向のある被災者に声かけを行い、その方の状況に対応した参加への働きかけを行う
- ・参加者の主体性を尊重し、過剰な手伝いや介助、介入は控え、本人の能力(できること)にあった作業にさりげなく誘導する

## ●活動内容

材料の手配は容易、かつ担当者の誰もが対応できる作業に絞り、各種脳活プリント、折り紙、塗り絵、手芸等

## ●効果

みんなで顔を合わせて、おしゃべりしながら活動ができて楽しいなどの声が聞かれ、継続的な参加がみられている。会場準備やリーダー的な役割の方、作業を住民同士で教え合う等も見られるようになってきている

# 仮設住宅の集会所等で介護予防のための教室を開催

アクティビティセンター



# アクティビティセンター開催状況



	団地名	開催場所	開設日	開催回数 (回)	延べ 参加者数 (人)
			(週1回開催)		
輪島市	三井町第1団地	集会場	10月～	23	307
	大屋公民館	公民館	3月～	4	34
能登町	小木第1団地	小木交流センター	8月～	31	290
	ふじなみ第2団地	談話室	10月～	22	101
	まつなみ第1団地	集会場	1月～	9	101
	松波公民館	公民館	1月～	3	11
穴水町	由比ヶ丘団地	集会場	11月～	19	227
	川島第2団地	集会場	12月～	8	67
七尾市	万行第1・2団地	集会場	1月～	11	129
志賀町	とぎ第2団地	集会場	11月～	19	267
	とぎ第4団地	富来防災センター	12月～	15	155
	とぎ第8団地	富来小学校体育館	3月～	4	38

# 個別訪問による相談支援、仮設住宅の生活環境の改善



## 【市町別 個別訪問支援件数】

	輪島市		珠洲市		能登町		穴水町		七尾市		志賀町	
	訪問 人数 (人)	のベ 件数 (件)										
6月	216	216	47	51	75	97	205	250	0	0	36	40
7月	268	268	111	117	64	70	1,605	1,963	0	0	75	81
8月	92	92	113	123	42	53	1,597	2,601	1	1	72	79
9月	5	5	125	128	112	139	1,121	1,892	2	2	102	106
10月	9	9	192	205	44	56	401	881	4	4	39	48
11月	17	17	132	152	40	45	169	272	1	1	32	34
12月	10	10	100	147	42	62	205	328	0	0	36	39
1月	9	9	74	84	63	92	175	280	1	1	18	19
2月	16	16	85	87	24	42	162	255	8	8	8	9
3月	11	11	48	57	52	68	90	141	1	1	14	24
計	653	653	1027	1151	558	724	5730	8863	18	18	432	479

## ●目的

建設型応急仮設住宅ではバリアフリーに対応しているが、復興リハビリテーション事業において、高齢者の身体特性によっては日常生活において転倒等の予防対策が必要な事例がみられるため、県が追加の手すり設置工事を行う

## ●対象者

- A 要介護(要支援)認定を受けている者
- B 身体障害者手帳、療育手帳を所持している者
- C A・B以外で、日常生活動作が杖・手すり等の支えなしでは困難な者

## ●改修までの流れ

- ・復興リハビリテーション事業にて派遣された担当者が順次仮設団地を訪問し、改修対象者を抽出
- ・県リハビリテーションセンターにて改修内容を取りまとめ
- ・県土木部にて発注

## ●改修工事の内容

- ・手すり取付(洗面所、浴室、トイレ、その他協議)
- ・その他協議

# 建設型応急住宅追加のバリアフリー対応



手すり追加工事等の必要性についてリハ専門職によるアセスメント実施



リハ専門職と県土木部との協働で現場確認を行い手すり追加工事実施

	住宅改修 件数 (件)	全戸数 ※ちらし配布 訪問確認 (件)
輪島市	59	2897
珠洲市	60	1718
能登町	43	571
穴水町	25	532
七尾市	9	575
羽咋市	1	67
志賀町	12	393
中能登	1	30
計	210	6783

